

卷之三

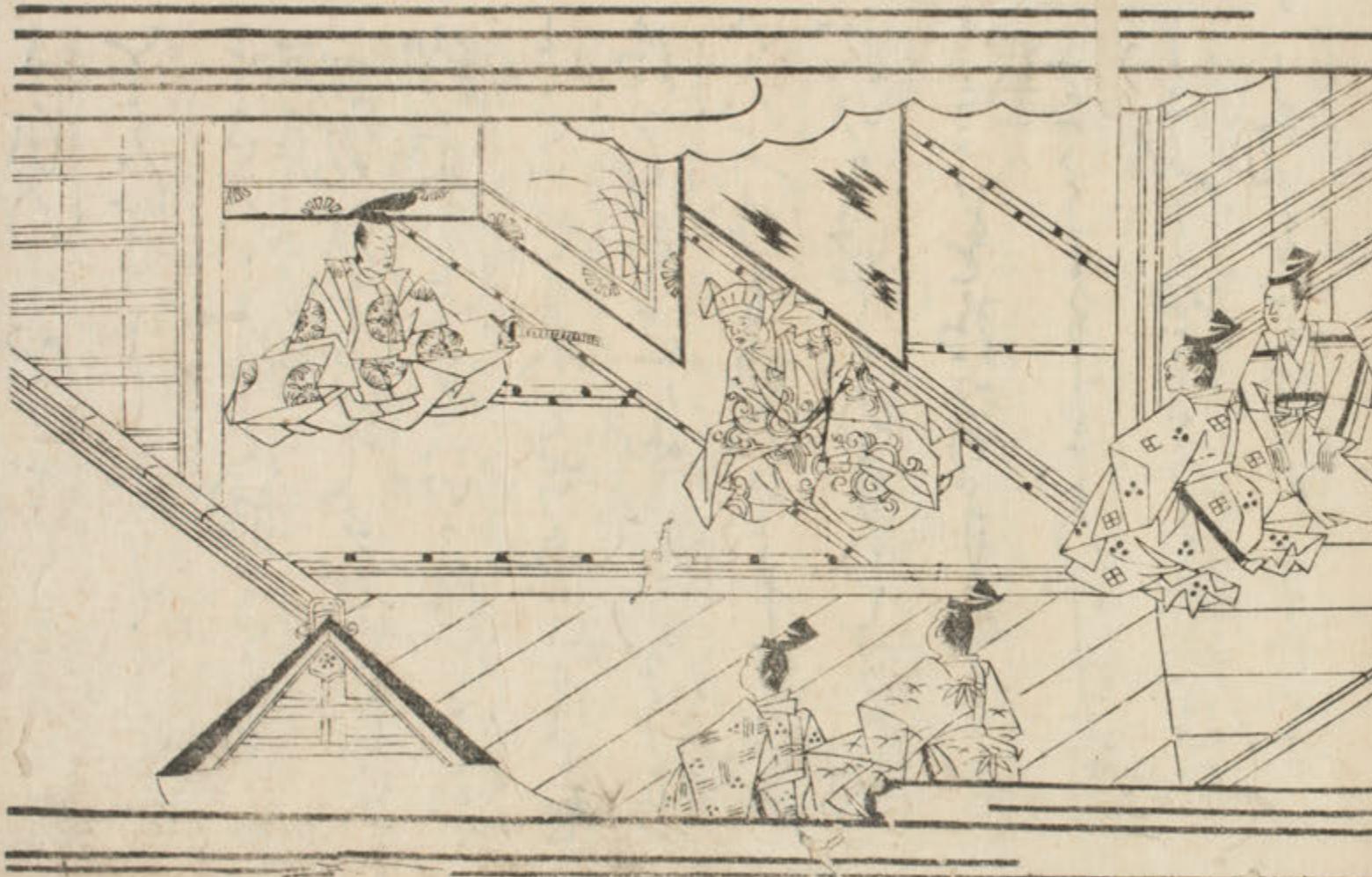
四

準貴

57 X  
94  
23



さう御よゆうじ  
らがめのまへ。かくのま  
をもとせぬまじ  
ひゆひとおせばゆ  
ち神ふとすま  
のぬのうごりて  
のあらわし  
えんじゆうのゆ  
のうめがまゆ  
めりのうめりよ  
めめめめめめ









蒙古語文書卷之三  
蒙古語文書卷之三







二十九年正月廿八日  
余在中華書局工作  
時有兩位老先生來  
訪問我。一位是王  
國維先生，另一位是  
陳寅恪先生。王國維  
先生問我：「你對  
中國文學史研究有  
何感想？」我回答  
說：「我對中國文  
學史研究沒有研究  
過，但對中國古文  
學研究有研究過。  
我認為中國古文  
學研究應該繼續  
下去，因為中國古  
文學研究已經到了  
一個新的階段。」  
陳寅恪先生聽了我  
的回答後，說：「你  
的回答很正確。中國  
古文學研究已經到了  
一個新的階段。」











じよ。まつやう。せき。くわう。くわう。  
かへり。のん。かへり。せき。

余日。のん。のん。のん。のん。のん。

さう。さう。さう。さう。さう。さう。  
さう。さう。さう。さう。さう。さう。



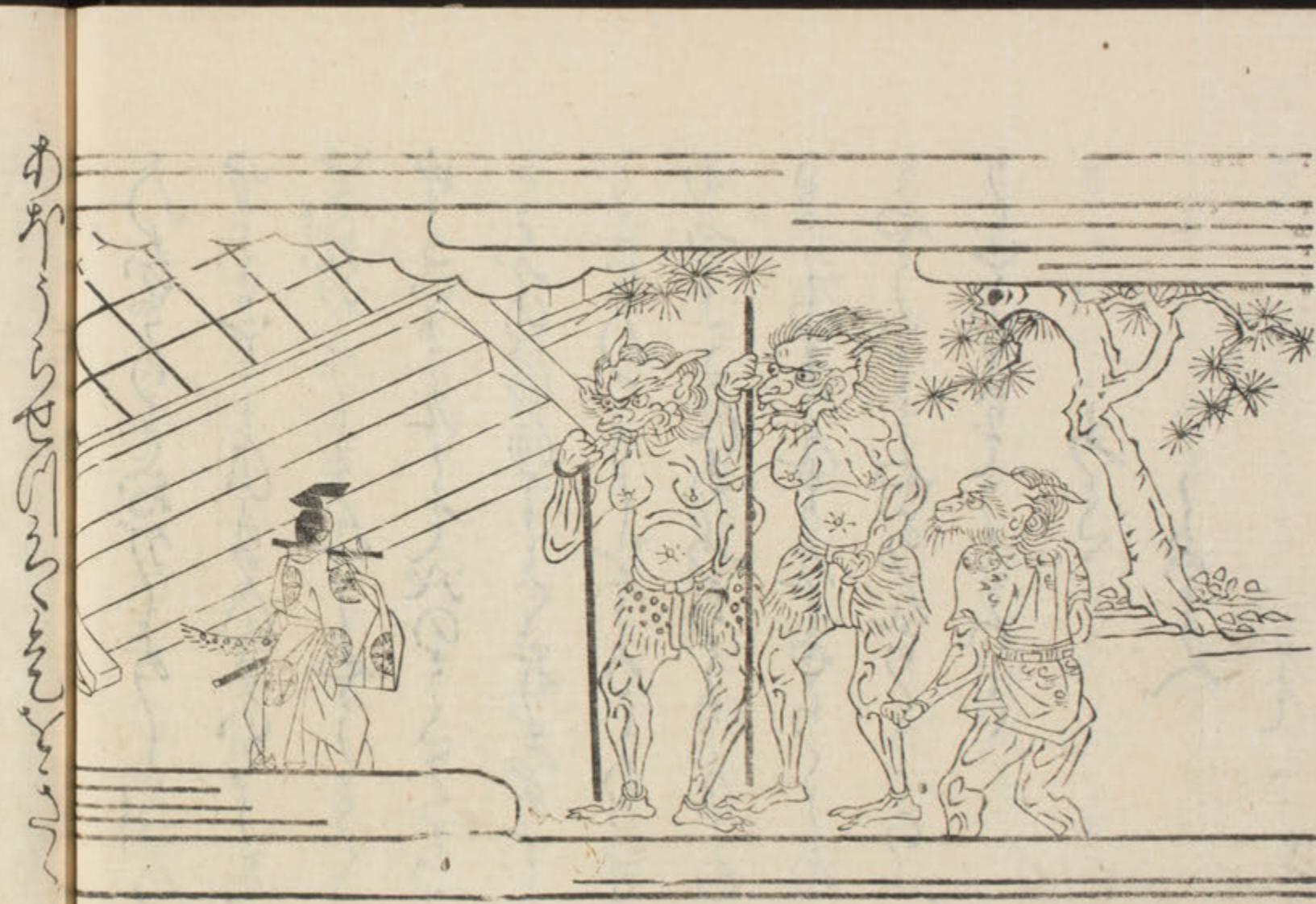


まつや。あくまでせんじゆ中

たまむかわくわくとくとくとく

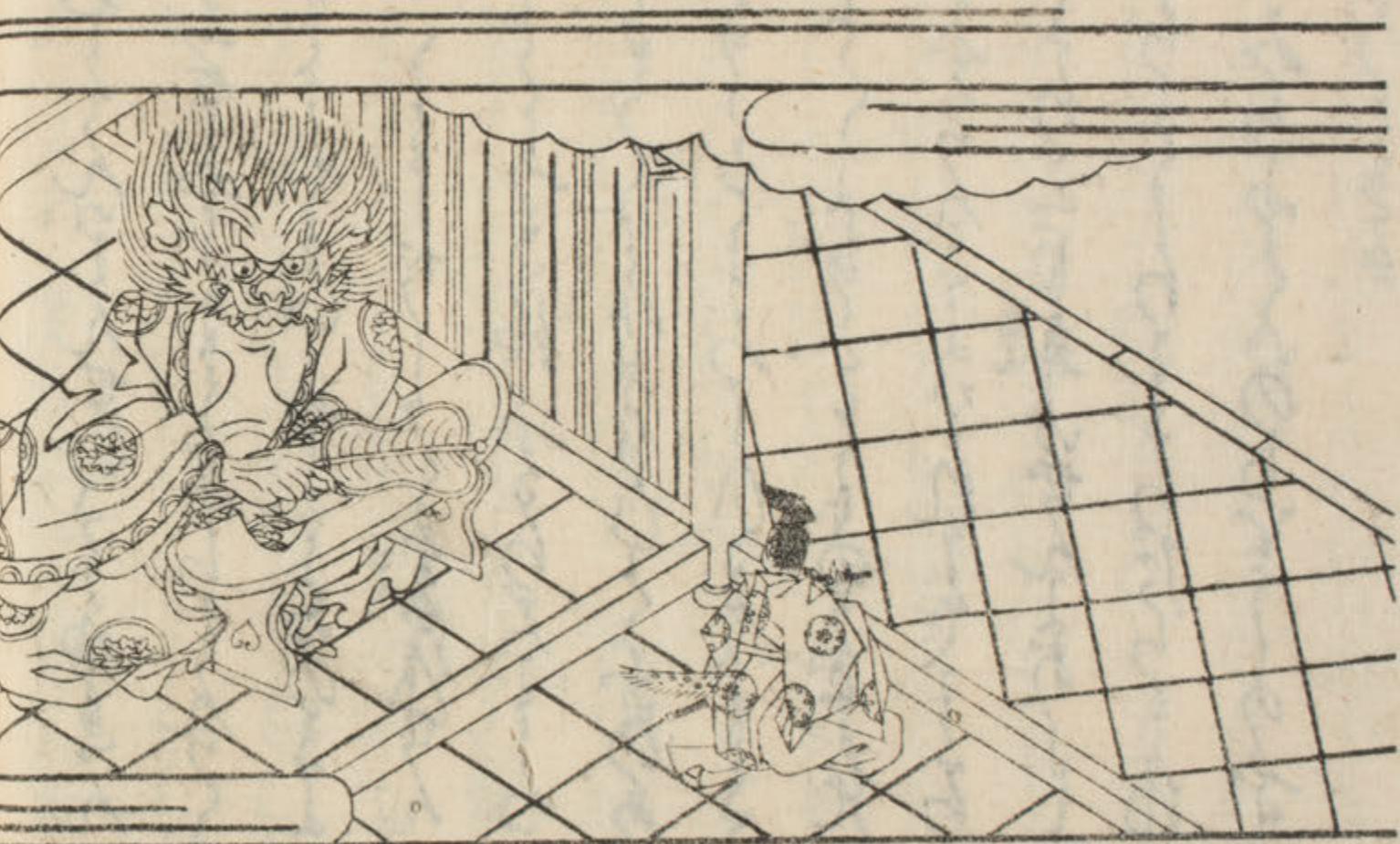
ようううううううううううう

ううううううううううううう

















て、うきよのこひくへと引か

ゆがだまらすた人のまつ

きそもみのびるぬのあこ

らかにうきのまんの内づ

むせやまくまくぬがわ

くわくわくわくわくわく

月のまづくはのうりで

くわくわくわくわくわく

めのまづくはのうりで

くわくわくわくわくわく

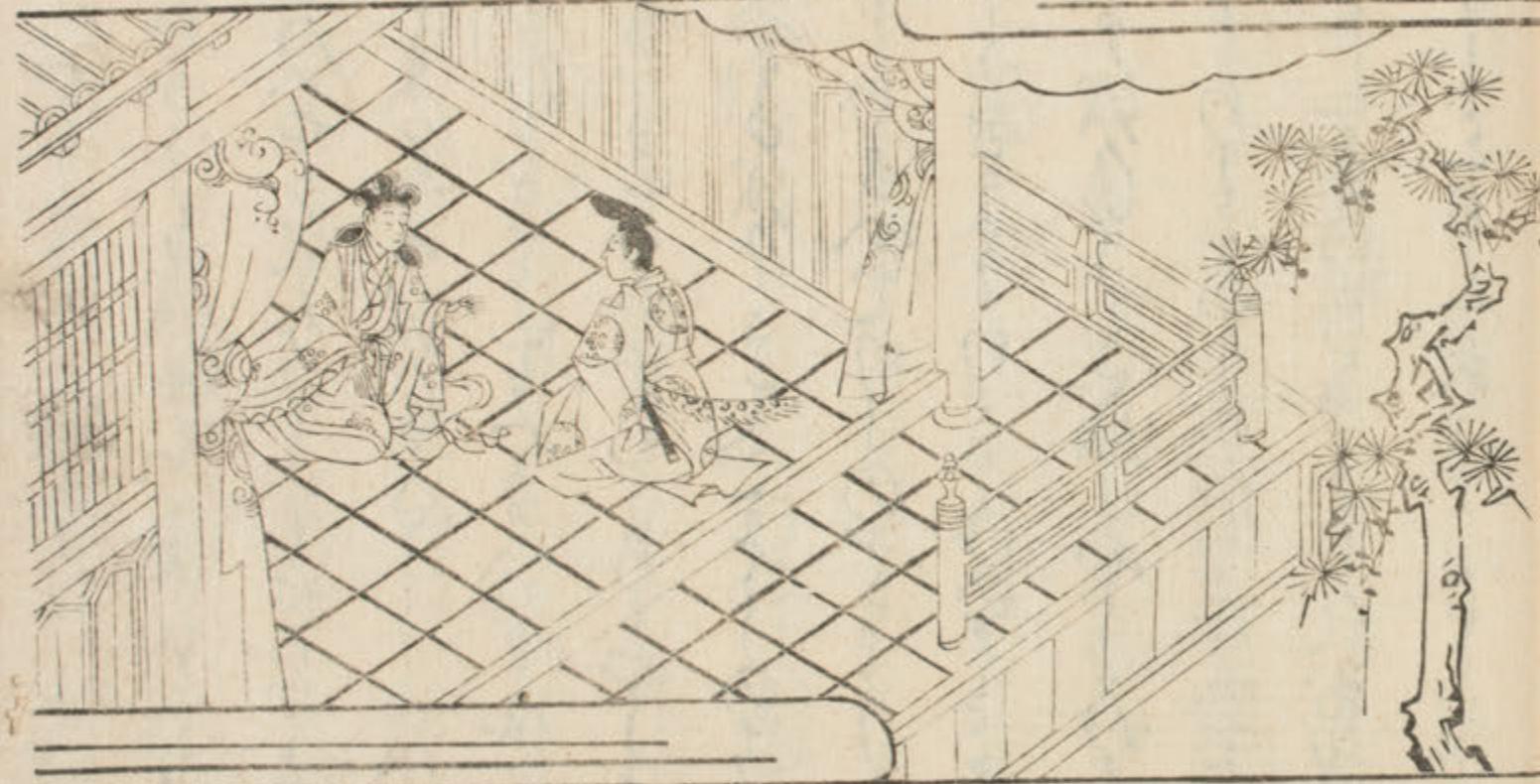
あゆしむくわくわく

あゆしむくわくわく



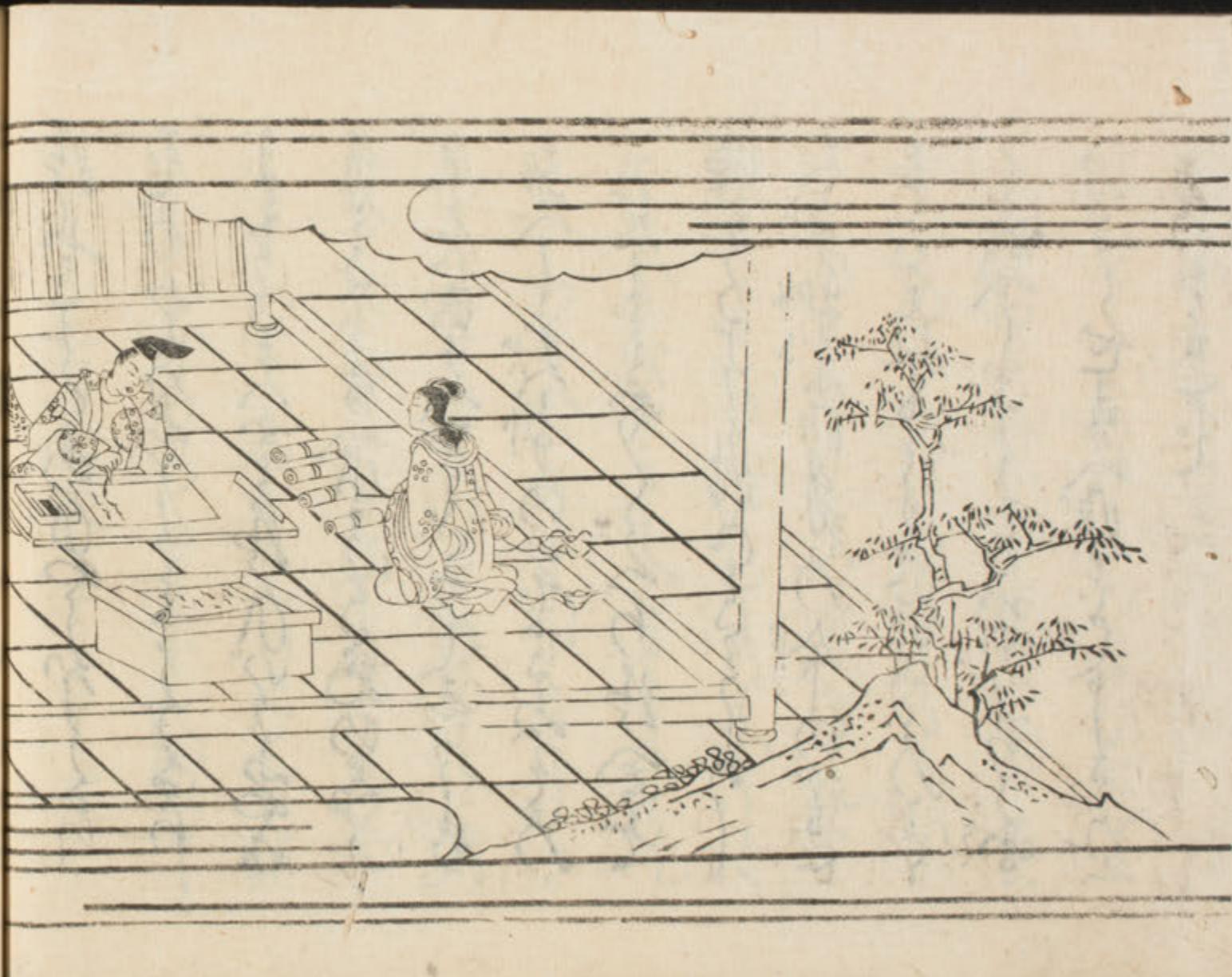


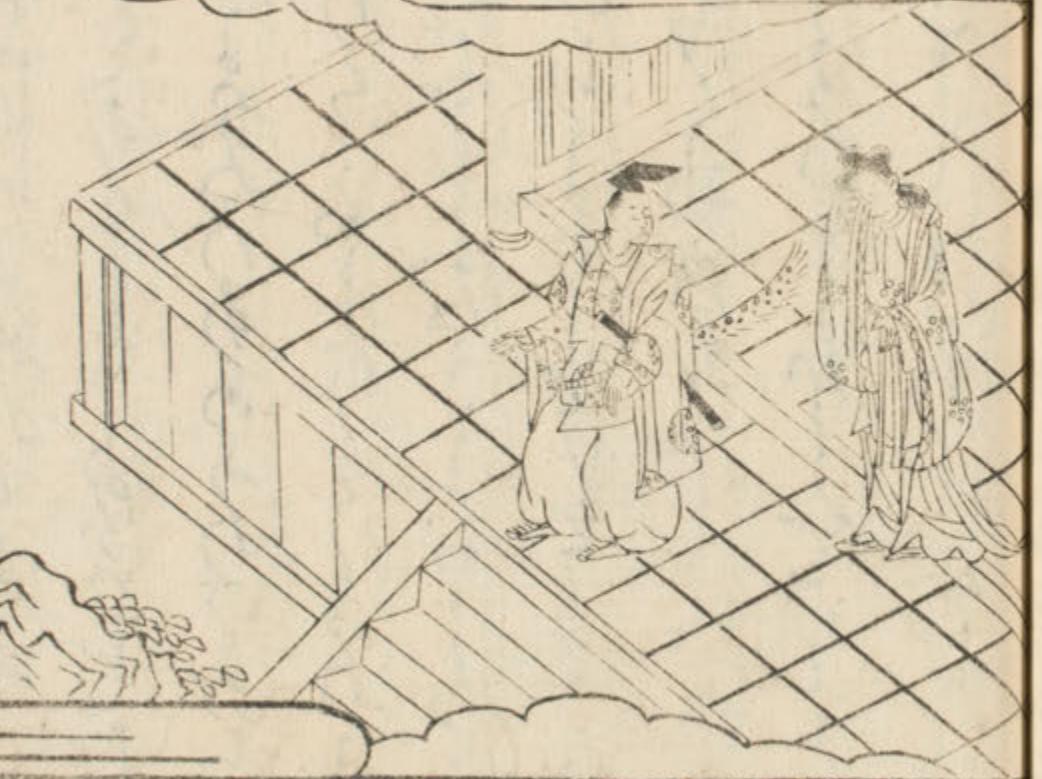
まひかくはうとうとひきりふる  
一そよぎのひひきるはれ  
てまひかくはうとうとひきりふる  
まひかくはうとうとひきりふる





とくにそよぎのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす  
かのじゆうのまゝにあらわす



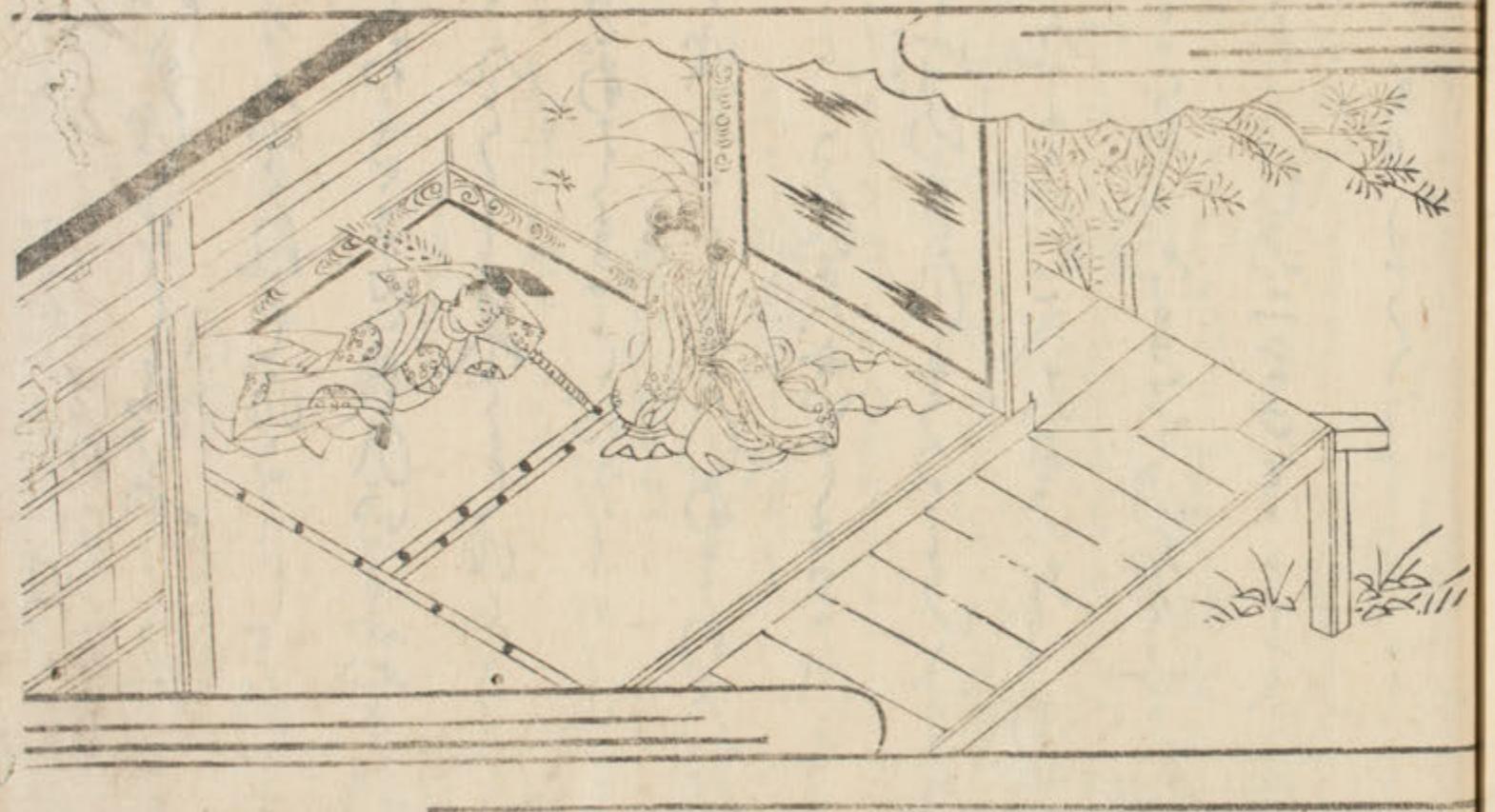


日の出の  
風の音  
水の音  
月の音  
星の音  
鳥の音  
虫の音  
風の音  
水の音  
月の音  
星の音  
鳥の音  
虫の音  
風の音  
水の音  
月の音  
星の音  
鳥の音  
虫の音  
風の音  
水の音  
月の音  
星の音  
鳥の音  
虫の音









人をもてす。自らの心と  
よりともよひ。源氏百代の  
やうなふんぞうひう  
とく。かくがゆきゆきの  
きはどのもあそび。ひ  
うつゆうじとくも  
ひよく花びらひしきひで。  
のまく。ゆきのむかう  
せよおほづ。くわいひ  
のむく。おほづ。くわいひ  
せよおほづ。くわいひ

蒙古文

蒙古文

卷之三

卷之三

蒙古文

